

clipping を施行した。

中大脳動脈閉塞症による hemodynamic stress が誘因になったと考えられる脳動脈瘤の報告は散見されるが、本症例のように前中大脳動脈の末梢部に3個の動脈瘤が発生した症例は稀と思われたので報告した。

2A-4) 低血糖発作時、右片麻痺、失語症を呈した左中大脳動脈閉塞症の1例

北條 敦史・中川原 譲二  
 武田利兵衛・田中 靖通  
 瓢子 敏夫・福岡 誠二  
 戸島 雅彦・山口日出志 (中村記念病院)  
 中村 順一 (脳神経外科)  
 末松 克美 ((財)北海道脳神経疾患研究所)

今回我々は低血糖発作時に一過性右片麻痺、失語症を呈した左中大脳動脈閉塞症の症例を経験し、発作時及び発作後の脳血流量を測定し得たので報告する。症例：51歳、男性。平成元年12月1日、突然の意識障害にて搬入。神経学的に右完全片麻痺、失語症、両側眼球の左方偏位を認めた。搬入時血糖 13mg/dl であった。20% グルコース 20ml 静注により上記神経症状は速やかに消失した。CT では異常を認めず、脳血管造影では左中大脳動脈閉塞を認めた。低血糖発作時の <sup>133</sup>Xe SPECT では左中大脳動脈領域の脳血流量は低下 (32ml/100g/min) し、血糖値補正直後、同部の脳血流量は改善 (42ml/100g/min) した。また、慢性期の DIAMOX<sup>R</sup> 負荷 <sup>123</sup>I-IMP SPECT early image では、左中大脳動脈領域に軽度の脳血管拡張能の低下を認めた。本例に認められた片麻痺、失語症の発現機序として、閉塞血管遠位部における代償性脳血管拡張能による脳血流の維持機構が低血糖により障害され、脳虚血が引き起こされたものと考えられた。

2A-5) 脳循環負荷試験後に虚血症状を呈した脳梗塞2症例の検討

桜井 芳明・佐藤 博雄 (国立仙台病院)  
 新妻 博・嘉山 孝正 (脳卒中センター)  
 脳神経外科  
 桜井 芳明・佐藤 博雄

我々は脳循環予備能の検査として、脳梗塞症例に降圧負荷や diamox 静注後の脳循環測定を行っている。今回は同負荷後に脳虚血症状が誘発されたと思われる2例を経験したので報告する。症例1は頻発する左片麻痺のTIA 発作を主訴とする右中大脳動脈 (M1) 高度狭窄症で、<sup>133</sup>Xe 静注法による脳循環測定で収縮期血圧を 140 から 100mmHg まで降圧した所、検査後エレベーター

の中で左上下肢の一過性脱力を訴えた。症例2は進行性の下肢に強い左片麻痺を訴え来院、脳血管撮影では左内頸動脈閉塞と高度の右内頸動脈の狭窄を認めた。<sup>123</sup>I-IMP SPECT では左大脳半球と右前中大脳動脈領域の CBF が低下し、diamox 1000mg 静注後は右中大脳動脈領域の CBF も低下した。検査後より左片麻痺の増悪を認めたが、約3日後に改善した。以上脳循環予備能が極度に低下した症例では、種々の脳循環負荷検査で虚血症状を惹起する可能性があり、検査施行にあたっては細心の注意を要する。

2A-6) 主幹動脈閉塞症における脳浮腫の検討

大槻 浩之・波出石 弘  
 鈴木 明文・水野 誠 (秋田県立脳血管研究センター)  
 中島 重良・三平 剛志 (脳神経外科)  
 安井 信之

目的：内頸動脈または中大脳動脈閉塞症に関し、急性期の脳血管撮影の側副血行路の程度と、脳浮腫の程度を検討した。

対象と方法：1987年から1989年の2年間に当センターで治療した脳梗塞患者 786名の内、発症2週間以内に脳血管撮影を施行し、内頸動脈または中大脳動脈に脳塞栓を確認し得た 105例である。内訳は男性78例、女性27例、平均66.8歳であった。また閉塞部位は内頸動脈30例、中大脳動脈水平部27例 (レンズ核線状体動脈より近位部9例、遠位部18例)、中大脳動脈 M2 48例であった。

結果：脳浮腫の著しい群は LSA より近位部の M1 部閉塞症例に多く、側副路に乏しく、早期に再開通を認めた症例に多く、同部の CBF は平均 13.6ml/100ml/min であった。逆に、脳浮腫の軽度な群では、側副路が良好で、再開通を認めず、rCBF は 24.8ml/100ml/min であった。主幹動脈閉塞症の場合、LSA の血流と皮質枝の側副路の発達程度により脳浮腫の程度が決定されると思われる。

2A-7) 脳血管障害における <sup>123</sup>I-IMP SPECT と <sup>99m</sup>Tc-HM-PAO SPECT の解離について

大里 俊明・中川原 譲二  
 武田利兵衛・田中 靖通  
 鎌田 一・瀬尾 善宣  
 鷺見 佳泰・松本 明彦 (中村記念病院)  
 中村 順一 (脳神経外科)  
 末松 古美 ((財)北海道脳神経疾患研究所)

SPECT を用いた三次元的脳血流分布の測定は、脳血管障害例の機能的診断上に有意であるが、用いるトレ